

令和 8 年度 川崎市 英語教育改善プラン

目標

外国人とのコミュニケーションを積極的にとることのできる児童の育成

☒ 言語活動
 ☒ 指導と評価の一体化
 ☐ 教師の英語力・指導力
 ☐ 校種間連携
 ☒ ALTの参画
 ☒ ICTの活用
 ☐ AIの活用
 ☐ その他

(パフォーマンステスト含む)

(専科教員含む)

(AIを除く)

1. 目標に対する現状

改善が進んだ点

①ALTの活用について、教師とのやり取りのモデル提示に生かすなどの、積極的な活用が進んでいる。
(R5:100%)

②R6全国学力・学習状況調査の質問調査の結果から、英語の学習に対する理解度は概ね良好な状況である。
(参考：R6:77.9%)

未だ改善が必要な点

①ICTの活用について、児童が遠隔地の英語に堪能な人と個別に会話を行う活動の実施状況に課題が見られる
(参考：R5:0.9%)

②新規採用者に占める一定の英語力を有する者の割合は増加したが、目標に届いていない。(R6:8.9%[27/302名]⇒R7:9.4%[16/179名])

2. 要因分析

①中核英語教員（CET）研修にALTを招き、授業での具体例を踏まえた研修を実施した成果と捉えている。

②市作成の実践事例集や各種研究授業等において好事例を共有・公開したことで、より多くの教師の授業改善につながったことが一因と考えられる。

①端末を活用したオンライン英会話の実践事例の周知が不十分であることが考えられる。

②目標達成に向け、教員採用試験の加点制度の周知等が未だ十分ではなかったことが考えられる。

3. 目標を達成するための施策・事業

①言語活動によるALT活用促進

中核英語教員（CET）研修や希望研修において、複数のALTを講師とした小グループでALTとの効果的なチームティーチングを学んだり、各校の実践事例を共有するワークショップを実施する。

②実践事例集や研究授業を通じた授業改善

学校訪問や研究授業等において、作成した実践事例集の好事例の周知を推進したり、各校の実践事例の情報交換をおこなったりするなど、更なる授業改善につながるよう学校を支援する。

①ICT機器を活用した言語活動の推進

ALT派遣業者と連携した、学校の要望に応じて日常の授業の中でも遠隔地にいる講師とオンラインで接続し英会話の取組を推進し、実践事例を各種研修でその取組を市内の学校に発信する。

②求められる英語力を有する教員確保の促進

教員採用試験において一定の英語力を有する者に対する加点制度を継続するとともに、教員志望者を対象に本制度の更なる周知を図る。

令和 8 年度 川崎市 英語教育改善プラン

目標

外国人とのコミュニケーションを積極的に取ることのできる生徒の育成

○CEFR A1レベル相当以上の英語力を取得又は有すると思われる生徒の割合（R7：60.6％⇒R8：63.0％）

☒ 言語活動
 ☒ 指導と評価の一体化
 ☐ 教師の英語力・指導力
 ☐ 校種間連携
 ☒ ALTの参画
 ☒ ICTの活用
 ☐ AIの活用
 ☐ その他

(パフォーマンステスト含む)

(AIを除く)

1. 目標に対する現状

改善が進んだ点

①ICT機器の利用について、発話や発音などの録音・録画の活用が進んでいる。
(R6:94.2%⇒R7:94.2%)

②学習者用デジタル教科書の活用が進んでいる。
(R6:100%⇒R7:100%)

未だ改善が必要な点

①R6全国学力・学習状況調査の質問調査の結果から、即興で自分の考えや気持ちなどを英語で伝え合う活動が行われていると捉えている生徒の割合が十分ではない
(参考R6:80.0%)

②遠隔地の生徒や教師、ALTと等と話す交流などの実施状況について課題が見られる(R7:15.4%)

2. 要因分析

①各種研修や要請訪問等で生徒自身が発話等を振り返り、学習改善に生かすためのICT機器の活用について周知した成果と捉えている。

②各種研修や実践事例集を通して、生徒が個別の課題に応じて端末を活用する事例を周知した成果と捉えている

①話すこと[やり取り]の指導場面において、一部の学校において即興で伝え合うことよりも、事前に原稿を準備したやり取りに重点が置かれていることが考えられる。

②話すこと[やり取り]の指導場面において、ネイティブスピーカーを相手にしたアウトプットの場面の設定が十分ではないと捉えている。

3. 目標を達成するための施策・事業

①②ICT機器を活用した言語活動の推進
学習者用デジタル教科書の活用場面が分かるように実践事例集を編集したり、教育課程研究会や研究推進校の公開授業に対する支援を通して、先進的な取り組みを市内の学校に発信する。

①調査結果を踏まえた正確な分析と学校支援
教育課程研究会や指導力向上研修、要請訪問等において、単元や題材のまとまりや身に付けさせたい力を見通した授業づくりと、繰り返しの言語活動の中での形成的評価を行いながら目標の達成に向けた指導を行うことについて指導・助言を行う。

②ICT機器を活用した言語活動の推進
ALT派遣業者と連携し、学校の要望に応じて日常の授業の中でも遠隔地にいる講師とオンラインで接続し英会話をするなど、ネイティブスピーカーとコミュニケーションする機会を増やすことができるようにする。

令和 8 年度 川崎市 英語教育改善プラン

外国人とのコミュニケーションを積極的に取ることのできる生徒の育成

○CEFR A2/B1レベル相当以上の英語力を取得又は有すると思われる生徒の割合
(R7 : A2以上 67.9%、B1以上 25.9% ⇒ R8 : A2以上 76.0%、B1以上 34.0%)

目標

☒ 言語活動 ☒ 指導と評価の一体化 ☐ 教師の英語力・指導力 ☐ 校種間連携 ☒ ALTの参画 ☒ ICTの活用 ☐ AIの活用 ☐ その他
(パフォーマンステスト含む) (AIを除く)

1. 目標に対する現状

改善が進んだ点

未だ改善が必要な点

- ①普通科、国際学科以外の専門学科において授業での教師の英語での発話状況に改善が見られる。(参考「発話の50%以上を英語で行っている」)
(R6:28.6%⇒R7:49.9%)
- ② 普通科においてスピーチ大会など不定期に実施される授業外での活動に向けた指導にALTが参画する状況に改善が見られる
(R6:50.0%⇒R7:100%)

- ①普通科、国際科以外の専門学科において、ALTの授業外での活動や学校行事での生徒との交流での活用に課題が見られる
(R6:75.0%⇒R7:75.0%)
- ②遠隔地の生徒や教師、ALTと等と話す交流などの実施状況について課題が見られる
(R7:60.0%)

2. 要因分析

- ①高等学校各教科等研究協議会等において教師の発話の時意義等について周知した成果と捉えている
- ②担当者会等において、授業外でのALTの活用について周知した成果と捉えている。

- ①ALTを活用した活動の計画において、普通科、国際科が優先されており、それ以外の専門学科においてALTとの交流の場面が少なくなっていることが考えられる。
- ②話すこと[やり取り]の指導場面において、ネイティブスピーカーを相手にしたアウトプットの場面の設定が十分ではないと捉えている。

3. 目標を達成するための施策・事業

- ①英語で行う授業の推進
外国語教育指導力向上研修における中高の英語科教員の交流や、高等学校各教科等研究協議会の公開授業への支援を通して、教師の英語使用の意義を周知していく。
- ②ALTの活用促進
各教科等研究協議会や外国語教育指導力向上研修などにおいて、ALT派遣業者と連携したALTの複数複数配置の取組について引き続き周知を行い、活用を促進する。
- ①全学科でのALTの活用促進
各教科等研究協議会・外国語教育指導力向上研修でのALTの効果的な活用方法についての情報交換や協議等を通し、全学科での授業内外でのネイティブスピーカーとのコミュニケーションの更なる充実を図る。
- ②ICT機器を活用した言語活動の推進
ALT派遣業者と連携し、学校の要望に応じて日常の授業の中でも遠隔地にいる講師とオンラインで接続し英会話をするなど、ネイティブスピーカーとコミュニケーションする機会を増やすことができるようにする。

川崎市教育委員会

校種	指標内容		2023		2024		2025		2026		2027	
			目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値
高等学校	①CEFR A2レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合（％）		70.0	66.6	72.0	67.9	74.0	67.9	76.0		78.0	
	①CEFR B1レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合（％）		30.0	25.3	30.0	25.8	32.0	25.9	34.0		36.0	
	②授業における、生徒の英語による言語活動の割合（％）		80.0	69.0	80.0	78.0	81.0		82.0		83.0	
	③スピーキングテストとライティングテストの両方を実施した学校の割合（％）		80.0	73.7	80.0	100.0	82.0		84.0		86.0	
	④「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の整備状況	設定（％）	100.0	100.0	100.0		100.0		100.0		100.0	
		公表（％）	100.0	88.9	100.0		100.0		100.0		100.0	
		達成状況の把握（％）	70.0	66.7	100.0		100.0		100.0		100.0	
	⑤CEFR B2レベル相当以上の英語力を有する英語担当教員の割合（％）		85.0	83.8	85.0	85.4	86.0	95.5	87.0		88.0	
	⑥英語担当教員が授業における発話の半分以上を英語で行っている割合（％）		85.0	52.4	85.0	63.4	86.0	65	87.0		88.0	

校種	指標内容		2023		2024		2025		2026		2027	
			目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値
中学校	①CEFR A1レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合（％）		57.0	54.1	59.0	60.1	61.0	60.6	63.0		65.0	
	②授業における、生徒の英語による言語活動の割合（％）		85.0	76.9	85.0		86.0		87.0		88.0	
	③スピーキングテストとライティングテストの両方を実施した学校の割合（％）		100.0	100.0	100.0		100.0		100.0		100.0	
	④「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の整備状況	設定（％）	100.0	100.0	100.0		100.0		100.0		100.0	
		公表（％）	80.0	75.0	100.0		100.0		100.0		100.0	
		達成状況の把握（％）	80.0	65.4	100.0		100.0		100.0		100.0	
	⑤CEFR B2レベル相当以上の英語力を有する英語担当教員の割合（％）		60.0	53.3	60.0	54.8	61.0	63.4	62.0		63.0	
	⑥英語担当教員が授業における発話の半分以上を英語で行っている割合（％）		90.0	79.5	90.0		91.0		92.0		93.0	

校種	指標内容		2023		2024		2025		2026		2027	
			目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値
小学校	「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の整備状況	設定（％）	100.0	100.0	100.0		100.0		100.0		100.0	
		公表（％）	80.0	63.2	100.0		100.0		100.0		100.0	
		達成状況の把握（％）	80.0	69.3	100.0		100.0		100.0		100.0	